

血乳のおはなし

血乳には、乳房炎によるもの、外傷や打撲によるもの、そして分娩後の生理的なものに大きく分けられますが、今回は分娩後の血乳についてのお話です。

この生理的血乳は、分娩後に急速に乳汁合成そして泌乳が開始されることに伴い、乳腺組織へ大量の血液が流入するため、乳腺局所の毛細血管が拡張、破綻し、発症すると言われています。

周産期の乳牛では、エネルギー要求量の増加と共に『活性酸素』という物質が多量に産生されてしまいます。すると、乳牛自身の抗酸化力とのバランスが崩れ、酸化ストレスが増大。活性酸素は細菌を酸化させて撃退する能力ももっていますが、組織傷害性が高く、過剰になると、乳腺など抹消の毛細血管をもろくしてしまいます。分娩して泌乳開始し、乳房内を流れる血流量が急激に多くなると、そのもろくなった血管から血液が漏れでてきて、血乳となってしまいます。

酸化ストレスは、この血乳だけでなく乳房浮腫、乳房炎や胎盤停滞などのリスクも増加させると言われています。では、その酸化ストレスを緩和するためには…抗酸化剤となるビタミン E やセレンを乾乳後期に十分量給与することが良いとされています。このほか、銅、亜鉛などのミネラル給与も効果的です。気になる方は獣医師にご相談ください。

★乾乳牛への推奨給与量★ ビタミンE 約 2000IU/日 セレン 0.3ppm/日

ビタミン E やセレンなどのミネラルを与えるだけで血乳をなくすことができるわけではありませんが、お悩みの方は一度乾乳期の管理を見直してみてもいいのではないでしょうか。

また、バソラミン投与で治癒しない血乳に対して、プロジェステロン製剤の投与が有効との報告もあります。良い実感が得られたら、また報告させていただきます。

松下

